

田屋遺跡現地公開

— 県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う発掘調査 —

1.はじめに

公益財団法人和歌山県文化財センターでは和歌山県から委託を受け、県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良工事に伴い田屋遺跡の発掘調査を行っています。田屋遺跡は和歌山市田屋、小豆島に所在する遺跡です。過去の調査において竪穴建物等の古墳時代から中世にかけての集落跡が発掘されています。この度の発掘調査により田屋遺跡の北部周辺の状況の一端が判明したため、調査成果を公開します。調査面積は約2,000㎡です。

2.調査成果

現在、2地区に分けた後半部分の調査を行っています。前半の調査区では、奈良時代から平安時代にかけて利用されていたとみられる溝や調査区南部を東西に流れる自然流路を検出しました。また、近世の鋤溝や中世のものと思われる小穴を確認しました。現在の調査区では道路状遺構の可能性もある土坑列や溝、田畑の境界とみられる畦畔が発掘されています。

004溝

調査区(1区)北端西部で検出された北東から南西方向に流れるとみられる004溝は2層の埋土が検出され、上層では中世の遺物が、下層では奈良時代の遺物が出土し、この時代にまたがって溝が存在していたと考えられます。奈良時代の遺物からは、前期のものと思われる格子叩の平瓦の破片が出土しました。平安時代の遺物としては須恵器の壺底の破片などが出土しています。

鋤溝群

調査区北側(1区)では、近世の鋤溝とみられる遺構が少なくとも12条確認されました。鋤溝は、ほぼ南北方向に延びていて、煙管の雁首部分が出土しています。

小穴列

調査区(1区)では、鋤溝群と重複する形で小穴列を検出しました。遺物は未検出で時代の判定が困難ですが、鋤溝の上に小穴が存在することから、鋤溝群より新しいと考えられます。但し、配置から掘立柱建物であった可能性もあります。

自然流路

調査区南部分(3区)では、人の営みを示すような遺構は検出されませんでした。幅15m以上を測る自然流路が検出されています。自然流路は東北東から西南西に向かって延びていると考えられ、両岸の肩が検出されています。その埋土からは少量ですが、5~6世紀の須恵器などの土器が出土しています。



004溝(南東から)



格子叩平瓦

須恵器椀



土坑列(2区)

自然流路の北側において検出されました。遺構から遺物が未検出であり時代の判定が困難ですが、古墳時代から奈良時代にかけての遺構ではないかと思われます。自然流路に沿って東西に延びていて道路状遺構である可能性があります。

畦畔(2区)

2区において田畑の境界である畦畔の高まりを検出しました。畦畔の南側は北側よりも低くなっていることから、田んぼないし畑が段をなしていたと考えられます。

まとめ

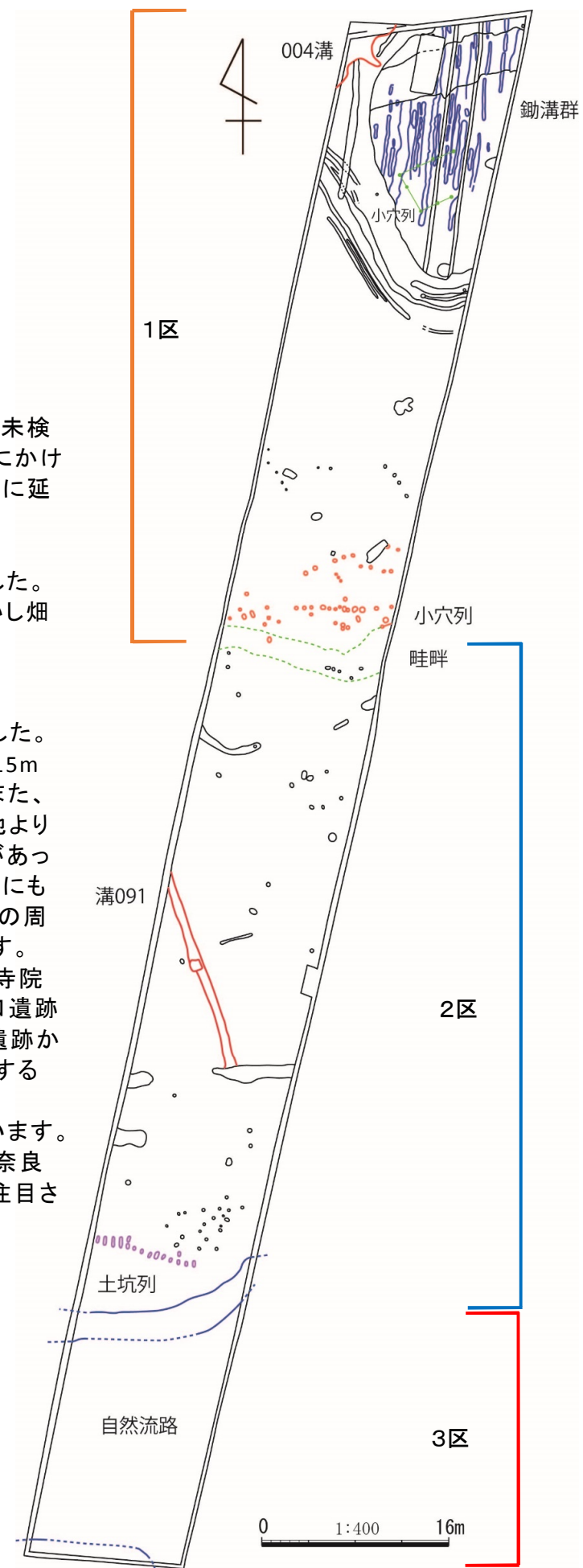
今回の調査区において住居等の遺構は確認できませんでした。北には六箇井用水と関連のある溝が確認され、南には幅約15mの東北東から西南西に延びる自然流路が検出されました。また、南北に延びる溝も検出されています。過去の調査から調査地より南にある国道24号線バイパス付近には古墳時代の集落跡があったことが確認されており、今回の調査地の東側にある微高地にも竪穴建物跡が確認されています。そのことからこれらの集落の周辺に広がる田畑などの耕作地であった可能性が考えられます。

004溝から奈良時代の瓦が出土しました。この時代、瓦は寺院や役所などで使用されていました。田屋遺跡の東方には山口遺跡や川辺遺跡があり、北側には府中遺跡が存在します。川辺遺跡からは幅8mに及ぶ道路跡が確認されており、古代の南海道とする考えもあります。また、府中遺跡地域には国府がおかれていたと考えられています。南海道に沿った地域には上野廃寺、山口廃寺、直川廃寺等奈良時代の寺院が存在し、今回出土の瓦もそれらとの関連性が注目されます。

古墳時代に埋没したと思われる自然流路から近世の鋤溝群まで幅広い時代の遺構を確認しました。このことから長い期間この地で人々の営みが行われていたことが明らかになりました。



土坑列(2区)
(南東から)



今回の田屋遺跡調査区